

# FEDERATION CYNOLOGIQUE INTERNATIONALE (AISBL)

Place Albert 1er, 13, B 6530 Thuin (Belgique), tel : +32.71.59.12.38, fax : +32.71.59.22.29, <http://www.fci.be>

---

## FCI ドッグ・ダンシング・ジャッジのガイドライン

---

このガイドラインは DOG DANCE JAPAN によって翻訳されました。

不確実な場合は、英語の原文が優先されます。

— 無断で複製・転載することを禁止します —

2020 年 8 月 15 日

## 内 容

1.はじめに .....	3
2.審査倫理および一般規定 .....	3
3.審査員団 .....	3
3.1 ヘッドジャッジ .....	4
3.2 その他の審査員 .....	4
4.獲得ポイント .....	4
4.1 表現 (Presentation) .....	4
4.2 内容 (Content) .....	5
4.3 芸術的解釈 (Artistic Interpretation) .....	6
4.4 動物福祉 (Animal Welfare) .....	7
5.失格 .....	7
6.減点 .....	8

## 1.はじめに

このガイドラインは、すべての国の審査員が FCI ドッグダンシングルールの共通の理解と解釈を目的としています。ルールの変更または追加することを意図したものではありません。ガイドラインへの公式提案は、FCI Dog Dance 委員代表者を介して申し込みできます。提案は、可能な限り次の会議で検討されます。

審査員は、常にこれらのガイドラインの最新バージョンを使用しなければなりません。

審査員は、ドッグダンスが犬にとって楽しいものであることを常に考慮に入れる必要があります。審査員は常に公平で公正でなければなりません。個人的な感情が審査を邪魔してはいけません。すべての審査員は、迅速で信頼性の高い決定を下せるようにし、常に他者の審査を支持する必要があります。

## 2.審査倫理および一般規定

ジャッジは常に公平であり、その行為はすべての競技者に対して明白であるべきです。ジャッジは常にその日に見たものだけに基づいて審査し、以前のパフォーマンスや事前に得た情報に基づいて評価してはいけません。審査員は常に競技者に敬意を払い、ルーチン全体を通して丁寧に接する必要があります。チームは、リングに入ってから犬とハンドラーの両方がリングを離れるまで、審査員の監視下にあります。審査員は、義務付けられている場合を除き（例えば、即時失格を決定する場合）、ルーチン中に互いに話し合うべきではありません。また、見習い審査員は各演技終了後でのみ話し合うことができ、審査員がルーチンを採点し終えるまで、決して議論をしてはいけません。

審査員は、審査において一貫性を保ち、競技中ずっとそのレベルを維持する必要があります。審査員は規則と法規を厳守します。審査員は、常に前向きな可能性を持って各ルーチンを見、疑わしい場合は、犬とハンドラーに利益を与えること。審査員は、1 日で多くのチームを判断することに決して同意してはなりません。報酬は主催者と事前に交渉する必要があり、主催者は審査員に審査の質を維持するために十分な休憩を提供します。

審査員は、競技中、プロフェッショナルな態度を維持し、リングサイドの競技者と不必要な議論を行ってはいけません。

ヘッドジャッジには失格のような特定の問題について競技者に知らせる義務があります。

審査員は、同僚の決定や行動を公に批判してはいけません。審査員は、たとえ自分が審査を務めていない場合でも、常に模範を示すべきです。審査員は決して審査員任命を自ら求めてはいけません。審査員を招待するのは主催者の仕事です。

審査員は場にふさわしい服を着る必要があります。世界選手権レベルの大会では、適切な服装でイベントに敬意を示すのが正しいです。主催者から名札、ロゼットなどが提供された場合、審査員はそれを着用することが求められます。

審査員は、常にこのスポーツの代表として礼儀正しく振る舞うべきです。

## 3.審査員団

ドッグダンスは、審査員団によって審査され、可能な限り公正な評価であること。審査員団は、3 人または 5 人

の審査員で構成され、ヘッドジャッジがリードします。すべての審査員は独立して採点を行います。この規則とガイドラインでカバーされていない事例が発生した場合、各ジャッジは自身で採点方法を決定します。問題がより一般的なものである場合、ヘッドジャッジまたはチーフスチュワードが対処します。ヘッドジャッジは常に競技中の最高権威者です。

審査員の決定は最終的なものであり、競技者は決定を批難してはなりません。

### 3.1.ヘッドジャッジ

ヘッドジャッジは、ルールで定義された最終的な決定を行う責任があります。ヘッドジャッジは、問題が発生するたびに、他の裁判官と問題について話し合うべきであり、それを解決するための貴重な見解を提供します。ヘッドジャッジは、競技の結果に影響を及ぼす事項について常に通知する必要があります。審査員が任務を果たすことができない場合、ヘッドジャッジに通知されるべきです。さらに、競技会場での事件(例えば 攻撃的な犬など)に対処する方法に関する国内規制を熟知している必要があります。

主催者は、審査員の一人にヘッドジャッジの地位に就くよう依頼します。この立場を軽視してはいけません:ヘッドジャッジは、常に必要な意思決定を行う上で実質的な経験と十分な権限を備えている必要があります。

ヘッドジャッジは、競技会前に審査員会議をリードします。この会議は、チャンピオンシップ大会を審査する前に開催する必要がありますが、他の国際大会でも開催できます。

不可抗力により競技を遅延、移動、またはキャンセルする必要がある場合、ヘッドジャッジとチーフスチュワードが協力してこの決定を下します。この場合のヘッドジャッジの責任は、規則に従って公正な方法で競技を実施できるようにすることです。この責任を果たすためには、ヘッドジャッジが競技エリアをチェックすることをお勧めします。

ヘッドジャッジは、競技の最終結果を確認し、競技レポートに署名します。国内の規則に従って、ヘッドジャッジの役割は異なるクラスでそれぞれ分けることもできます。

### 3.2 その他の審査員

審査員は、FCI ドッグダンスの規則と規制、および国内規則、規制と法律を十分に認識している必要があります。主催者は審査員に必要な情報を提供します。他の審査員の主な責任は、得点に焦点を当て、公正な評価を競技者に提供することです。

## 4.獲得ポイント

FCI ドッグダンスルールに従って、4 つの異なるカテゴリでポイントが付与されます。獲得できる最大スコアは 30 ポイントです。4 つの異なるカテゴリからポイントが獲得されます。チームは最初の 3 つのカテゴリから 0-9、4 つめのカテゴリで 0-3 のスコアを獲得できます。各ジャッジは、小数点以下 1 桁でポイントを授与します(したがって、2 つの異なるスコア間で可能な最小の差は 0.1 です)

### 4.1 表現 ( Presentation )

表現 (Presentation)のカテゴリでは、チームは最大 9 ポイントを獲得できます。以下が評価されています。

#### - パートナーシップと協力

理想的な協力は、常に犬はハンドラーに、ハンドラーは犬に 等しく注意を払う必要があります。これは常に、小道具、おもちゃ、または衣装の一部の助けを借りずに達成されるべきです。犬とハンドラーのチームは積極的に協力し、仕事を楽しみ、ルーチンを通じてお互いをサポートしています。

#### - フロー(流れ)

チームの作業は簡単で楽に見えます。ムーヴの間に意図しない中断はありません。

#### - 応答性

犬はためらうことなくハンドリングに応じます。これは、犬がハンドラーに注意を払うことに加えて、やる気があり、常に合図に反応することを意味します。

#### - コマンドとシグナル

ハンドラーが与えるすべてのコマンドとシグナルは、ルーチンに組み込む必要があります。ハンドシグナルは、振り付けや全体的な動きから目立つべきではありません。声符は決して怒りや耳障りな音であってはならず、大きな声は犬にとって必要なときにのみ使うべきです。

#### - 当日の表現

犬とハンドラーは、最初から最後まで苦労したり明らかな間違いを起こさずに、ルーチンを流暢に実行する必要があります。

#### - ムーヴの正確性

HTMではヒールワークは規則に従って完璧に行われます。フリースタイルでは、犬は一貫した動きを実行し、ムーヴは明確な開始から制御された結末まで定義されています。

## 4.2 内容 ( Content )

内容 (Content)のカテゴリでは、チームは最大 9 ポイントを獲得できます。以下が評価されています。

#### - 焦点を犬に合わせます

ハンドラーは犬より目立ってはいけません。ルーチンの主な重点は、常に犬やチームワークにあります。ハンドラーの動きは、犬の動きよりも注目を集めるべきではありません。

#### - ルーチンの構造

ルーチンは十分に計画され、明確な構造を持っている必要があります。犬はルーチン全てを動く必要があり、長時間の静的なポーズは奨励されません。ルーチンによく組み込まれた短い静止は、他のすべての動きと均等に評価されます。

#### - 均等にバランスのとれたリング使用

チームはリングスペースのほとんどを使用し、さまざまな形やパターンで動きます。リングの異なる領域を、ルーチン全体で均等に使用します。

#### - リングを広く使用

チームは、犬のサイズと速度を考慮して、常にできるだけ広くリングを使用する必要があります。犬がリングの少しの領域だけを使用している場合でも、均等にバランスが取れている必要があります。

#### - あまり詰め込まれない、バランスの取れたムーヴ量のルーチンは面白い

異なるムーヴは、すべてにバランスを取って行われるべきで、他と比較して過度に使用されていないように。

犬が動きに追いつくのに苦勞する場合、ルーチンは詰め込まれすぎています。ヒールワークルーチンは、ヒールワークの品質を楽しむことができるように、選択したポジションと方向の連続的な動きを十分含める必要があります。トリックとヒールワークのバランスは、規則に従う必要があります(25-75%または 75-25%)  
 HTM ルーチンのフリースタイルトリック部分は、犬のヒールワークポジションの理解を示すために使用される場合にのみ、追加の技術的メリットを提供します。HTM は、優れたヒールワークを提示することがすべてです。

#### - ムーブの多様性

ルーチンは、さまざまな種類の動きで構成されています。さまざまな側面から多様性を表現できます。ムーヴの高低差、トリックの静と動、ハンドラーとの距離、ハンドラーとの位置関係、速度、異なる方向性(後進、サイドステップ、)など。ルーチンに小道具が含まれている場合、それは十分に使用されるべきです。好ましくは、犬がそれで様々な動きを行い、テーマを伝える上で不可欠な部分として小道具を使用してください。小道具は、犬が遊んだり、犬への報酬として使用されるべきではありません。このような行為は、重大な減点につながります。ハンドラーによってリングに持ち込まれた物体は、小道具と見なされます。

#### - 個々の動きの難易度

ムーヴの難しさは、トリックに含まれる要素の観点から考慮されます。複数の要素で構成されているムーヴは、単体の場合よりも難しいと見なされます。

#### - 一連のバラバラな動きではないムーヴ間のトランジション・つなぎ目

犬は流暢に 1 つのムーヴから次のムーヴに移動することができます。ルーチンは、移動後に突然停止しないように計画する必要があります。すべてのトランジションは流暢で、すべてのつなぎはルーチンに美しく含まれている必要があります。

### 4.3 芸術的解釈 ( Artistic Interpretation )

芸術的解釈 (Artistic Interpretation)のカテゴリでは、チームは最大 9 ポイントを獲得できます。以下が評価されています。

#### - コンセプトの可視化

全体的なテーマやアイデア、そしてどのように振り付けられているか。つまり、ルーチンはストーリーやダンスのテーマで構成されます。これらのオプション自体は同等に評価する必要があります。ルーチンのアイデアは、審査員にとって明確に理解できるものでなければなりません。ルーチンの情景は、音楽を反映し、過去の情報なしに審査員をストーリーに引き込むことを意味します。審査員は、テーマを知っているとか、それが好きとかを審査しません。- 審査員は、概念が解釈されたかどうかを判断します。

#### - 音楽は犬のペースと動きのパターンに合っています。

音楽は、犬の自然な動き、気質、性格を反映するように適切に選択されます。

#### - 句切り

チームのパフォーマンスは音楽にタイミングを合わせます。音楽に特定のアクセントがある場合、これらはムーヴで区切られます。

#### - 適切なハンドラーの動き

ハンドラーの動きは、犬のパフォーマンスを向上させるはずですが、ハンドラーの動きは、犬の動きの良い背景になります。ハンドラーの動きも音楽と組み合わせられます。;その動きは音楽のテーマ、雰囲気、テンポと調和しています。

- ルーチンは、音楽の感情を反映しています  
音楽の雰囲気は、犬とハンドラーの動き、ルーチンの全体的なテーマを通して描かれています。
- 音楽の適切な使用  
音楽はファミリーオーディエンスにふさわしいこと。

#### 4.4 動物福祉 ( Animal Welfare )

動物福祉 (Animal Welfare) のカテゴリでは、チームは最大 3 ポイントを獲得できます。以下が評価されています。

- ルーチンは犬の資質(品種、性格、身体的能力、精神的能力など)を強調します。  
ルーチンを組み立てるとき、ハンドラーは犬の能力を考慮に入れ、害や不快感を引き起こすようなものを要求しません。犬は過度のストレスの兆候を示していない。
- 犬の健康と安全  
選択する動きは、犬の体の構造を気にする必要があります。ムーブを過度に繰り返してはなりません。怪我につながる可能性のある動きは行わないでください。また、ルーチンの計画では、リングの表面と犬の速度を考慮する必要があります。小道具とハンドラーの衣装は犬にとって安全でなければなりません。
- パートナーシップ  
ルーチン中に犬が精神的または肉体的に苦勞する場合、ハンドラーは遅れることなく犬を助ける必要があります。

#### 5.失格

失格はパフォーマンスの終了とすべてのポイントの損失につながり、犬はプログラムを続行できません。以下は必ず失格となります。

- ◆申請と異なるハンドラー または犬が参加している。  
犬またはハンドラーが申請と違う場合、チームは失格になります。
- ◆審査員を欺こうとする行為。  
ハンドラーが審査員を欺こうとしたことが判明した場合、彼らは失格となります。  
例えば、雌犬が発情中であることを主催者に伝え忘れた事等がこれに当てはまります。
- ◆不正行為。  
ハンドラーが規定違反した場合、失格となります。
- ◆ドーピングルールを遵守していない。  
チームのドーピング規定違反が判明した場合、失格となる。  
競技会開催中に行ったテストで競技会後に陽性の結果が出た場合は、競技会終了後もこの規定が当てはまります。
- ◆リング内にフードを持ち込む。
- ◆犬が制御不能でリングを離れた場合。
- ◆犬がリング内で排尿または排便した場合。
- ◆ハンドラーが明らかにルーチンをトレーニングラウンドに変えた場合。音楽は最後まで続きます。

- ◆手荒な扱い（口頭 又は 物理的）は容認されません。  
明白な場合は失格となり、軽度の場合は減点となります。
- ◆犬が会場やショーの敷地内で他の犬や人を攻撃した場合。  
攻撃は常に失格となりますが、それほど重大ではないことが会場で発生した場合も審査員はハンドラーに対して指導することができます。
- ◆競技リング内でリード（引き綱）を付けている場合。
- ◆ダブルハンドリング-リング外からの補助。
- ◆犬をコントロールするために接触する行為。  
ハンドラーは自ら犬に触ることは許されない。  
犬から行うべきです。
- ◆ハンドラーが小道具の設置撤収に 3 分以上かかる場合、失格につながる可能性があります。

その他の違反も、失格につながる可能性があります。

## 6 減点

理想的な演技の基準を満たさない場合、問題の重大性と関連してすべて減点対象となります。

以下に示す事象は、減点対象の一例に過ぎず、上記のカテゴリ(4 セクション)に基づいてスコアを付ける必要があります。

- 犬が作業中に誤ってリングの外に出た場合、他の不適切に演じられた動作と同様の方法で減点されます。
- 音楽が 4 分を超えると、減点されます: -0,2 pts./秒の減点
- 小道具の不適切な使用(犬を脅したり圧力をかけたり、犬のご褒美になっている)は、減点されます。  
ハンドラーが意図的に犬を褒めるために小道具を使用した場合、最大 15 点まで減点されます。  
ルーチン中に犬が誤って小道具を振り回したが、その後それ以上の注意を向けなかった場合、減点は大幅に小さくなります。  
犬に圧力をかけたり脅したりした場合、失格することもあります。
- ルーチンを通して過度に吠えた場合は、2 ポイント以下の減点になります。  
数回の吠えは許容されます。  
「許容」から「過度」の間は、問題の重大度に応じて減点されます。

採点表には減点のための特別なセクションがないので、関連するカテゴリの全体的評価に表されます。

このガイドラインは、2018 年 5 月にブダペストの FCI 総合委員会によって承認されました。  
出版と同時に発効する。